

震度予測解析（揺れやすさマップ）

地震防災マップの作成

阪神・淡路大震災では、死者の 8 割以上が家屋の倒壊による圧死でした。このような地震から、人命・財産を守るためには住宅等の耐震化が必要です。

「地震防災マップ」を作成することで、被害予測が可能となり、住民にも分かりやすい情報提供が行えます。マップ作成は「地震防災マップ作成技術資料（H17.3，内閣府）」に従って行います。



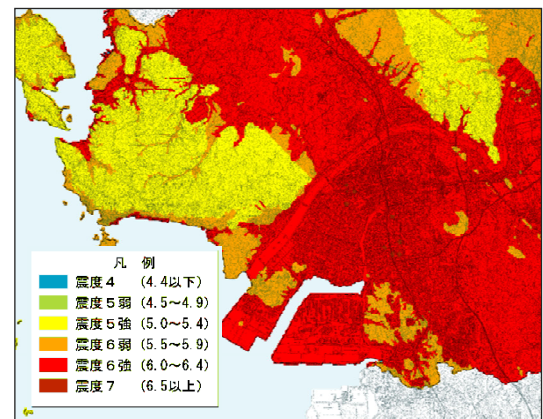
地震防災マップの作成例

1. 揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」とは対象地震が発生したときの各地の揺れを“震度”として、図面上に表現したものです。

◆作成手順

- ① 対象地域の地盤情報、微地形情報を入力し、「表層地盤での揺れやすさ」を求めます。
- ② 想定する地震について「工学的基盤における地震動の大きさ」を求めます。
- ③ 「表層地盤での揺れやすさ」と「工学的基盤における地震動」を掛け合わせ、「地表での震度」を算定します。



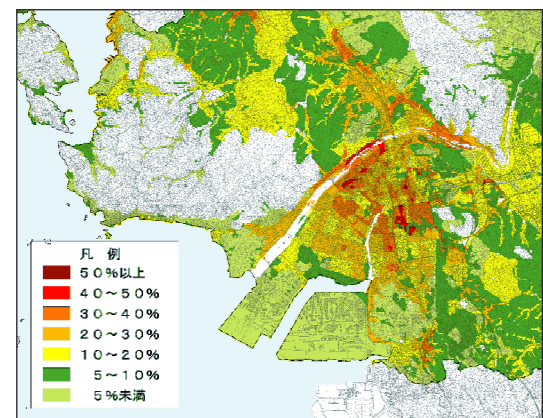
揺れやすさマップ

2. 地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」とは、想定される地震の震度を基に、建物の構造形式、建築年次などのデータを重ね合せ**建物が全壊する割合**を図面上に表したものです。

◆作成手順

- ① 対象地域の建築物の構造形式、建築年次などを整理します。
- ② 整理した建物データと揺れやすさマップを重ね合せ、建物全壊率を算定します。



地域の危険度マップ

業務実績

◆地震防災マップ(揺れやすさマップ、地域の危険度マップ)作成

山口県下関市(H19)、広島県福山市(H19)、愛媛県伊方町(H21)、愛媛県八幡浜市(H22)